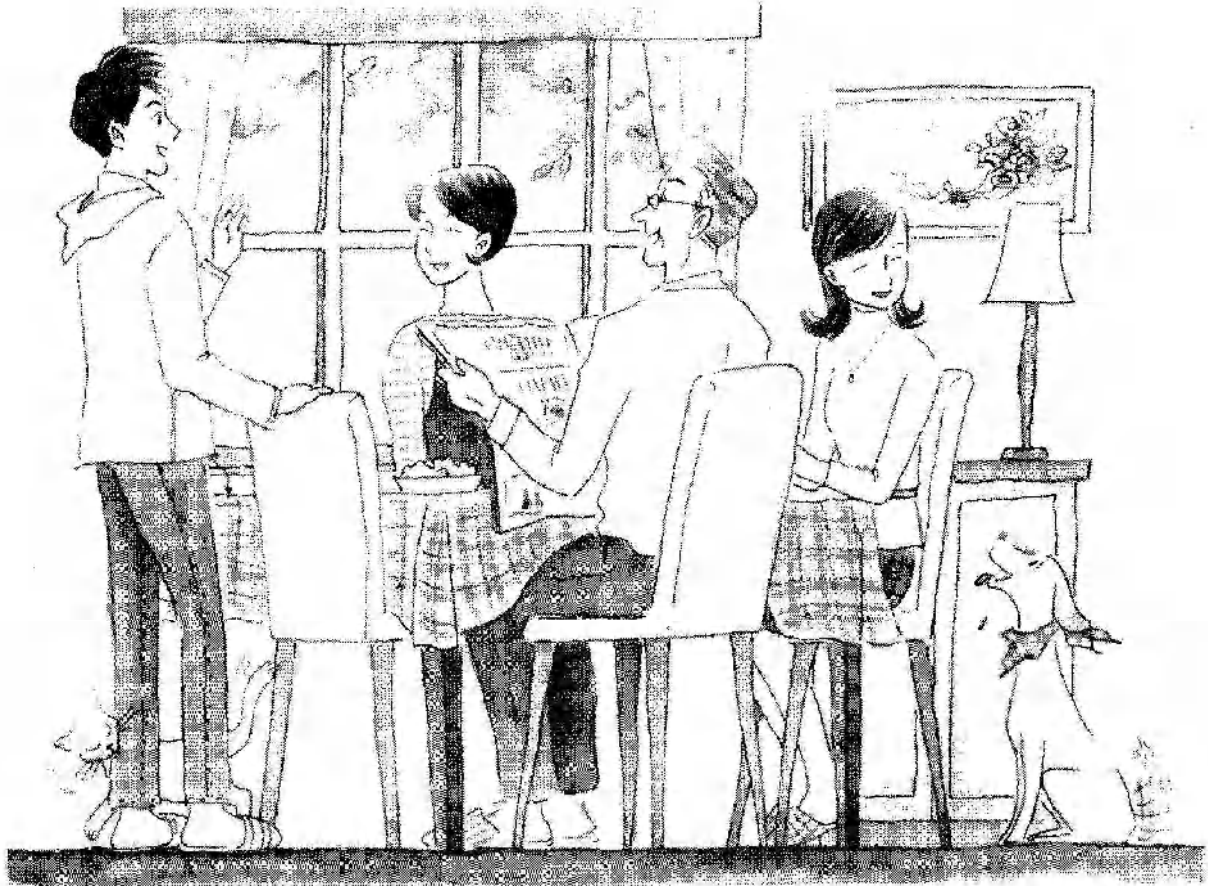


サステナブルライフスタイル

2025年, 家庭と社会のすがた

環境企画 : 松村 眞

今日では環境意識の高い市民が増えており、エネルギーと資源の消費を抑制する総論に反対する人はほとんどいない。だが個人はどんな生活をし、企業は何を提供し、社会は何を支援すればよいのかという各論はまだ十分に語られていない。そこで 2025 年頃の近未来を想定し、「低エネルギー・省資源社会」の具体的なすがたを予想する。近未来のすがたなので、すでに実用化が始まり 2025 年を待たずに普及すると思われる分野もあるが、見通しが不明確な分野もある。大切なことは望ましい将来のすがたを身近なライフスタイルとして具体的に想定し、確信をもって近づけていくことではないだろうか。本稿では身近なライフスタイルを描くために、モデルとしてイラストに示す平凡なビジネスマン家族に登場してもらおう。そして親戚や友人を含めた人たちのありふれた日々の生活を、連載形式で描く方法を採用した。読者も 2025 年頃にはこんな生活になっているのではないだろうか。なお、本稿は省エネルギーセンターの機関誌「省エネルギー」に 2004 年から 2 年にわたって連載した内容を再点検し、加筆してデータの更新を行ったものである (2012 年 10 月)。



(イラスト: 海老原ケイ)

[目次]

2024年10月	“成長の限界とサステナビリティ”
2024年11月	“太陽熱温水器とヒートポンプ”
2024年12月	“燃料電池と床暖房”
2025年1月	“年賀状とクッキングヒーター”
2025年2月	“太陽電池と風力発電”
2025年3月	“生分解プラスチック”
2025年4月	“メディア環境と電動自転車”
2025年5月	“ハイブリッド車の躍進、サマータイムの効用”
2025年6月	“朝の仕事と社内会議”
2025年7月	“多様化する勤務形態と個人ブース”
2025年8月	“サラリーマンの夏”
2025年9月	“変貌する「台所」”
2025年10月	“家事の省エネと宅配業の集約”
2025年11月	“スーパーマーケットの買物スタイル”
2025年12月	“電子年賀状の省エネ効果”
2026年1月	“小中学生のスクールライフ”
2026年2月	“病院とメディカルデータベース”
2026年3月	“可燃ごみの混合収集と焼却発電”
2026年4月	“会社の新年度とエコロジー工学”
2026年5月	“自宅の修理/交通の未来”
2026年6月	“カーシェアリングと行政サービス”
2026年7月	“ドイツ人のライフスタイルと省エネ住宅”
2026年8月	“留学生が伝える海外の環境・エネルギー技術”
2026年9月	“リサイクルのエコロジー”